

組合だより
JA **おからく**



平成29年5月10日発行

発行：おかやま酪農業協同組合
責任者：笹野 英明
津山市川崎94-1
☎(0868)26-1101



第32回中国地区 B & W ショウへ参加された岡山県立高松農業高等学校の皆さん

第32回 中国地区B&Wシヨウ開催

4月1日と2日、中国地区ホルスタイン改良協議会主催による「第32回中国地区B&Wシヨウ」を1府6県からの参加者により、岡山県真庭市の全農岡山県本部総合家畜市場で開催しました。

未経産72頭、経産43頭、合計115頭が一堂に会して、日頃の乳牛改良の成果を競い合いました。また、前夜祭等で会員相互の交流が図られました。

例年であれば桜が咲きほころぶ頃ですが、寒さにより開花時期が遅れる中、当日は晴天に恵まれ共進会日



和となりました。審査員には、アルタジャパン(株)・エリートジェネティクス(株) 代表取締役 細野淳氏にお願いの確でスピーディな審査及び講評をしていただきました。また、デーリイプリンスとして、(有)松尾牧場の従業員の上朝香さん、山本百香さんに花を添えていただきました。おかやまホルスタイン改良同志会からは50頭を出品し、別表のとおり10部門中6部門においてチャンピオンを獲得しました。

シニアチャンピオンには島根県河村保志さん、インターミディエイトチャンピオン及びジュニアチャンピオンには岡山県 妹尾優佳さんがそれぞれ獲得されました。

学校からも多数出品していただき、7校で24頭の出品がありました。最優秀高等学校には京都府立農芸高等学校が受賞されました。また、参加いただいた学校には健闘賞が贈られました。

最後になりますが、ご多忙の中ご来場いただき、力強い激励を賜りました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(事務局)

第32回中国地区B&Wシヨウ成績表

部	成績	名 号	府県	氏 名
未 経 産 牛	後代検定 チャンピオン ジュニアチャンピオン	ヒールクレスト スパーリング スター	岡山	妹尾優佳
	1 チャンピオン リザーブジュニアチャンピオン	TMF ダンス ウイズ マリリン マックス	京都	京都府立農芸高等学校
	2 チャンピオン	ウエストバレー SKN マツカチエン ホイツプ	鳥取	西谷拓実
	3 チャンピオン	カヤベ パンダ アテイツク トレートル	岡山	(公財)中国四国酪農大
	4 チャンピオン	タカノウ アルタアメイジング ダーハム ワカバ	岡山	岡山県立高松農業高等学校
経 産 牛	5 チャンピオン	グローリーオーサ クリームル ナツ ブローキング	京都	京都府立農芸高等学校
	6 チャンピオン	グローリーオーサ ルビテット プロカウ グランツ	京都	京都府立農芸高等学校
	7 チャンピオン リザーブインターミディエイトチャンピオン	カヤベ セイエラ アイオーン ヴェントス	岡山	(公財)中国四国酪農大
	8 チャンピオン リザーブグランドチャンピオン インターミディエイトチャンピオン	ヒールクレスト ジレスピー ロイ	岡山	妹尾優佳
	9 チャンピオン シニアチャンピオン グランドチャンピオン	リバービレッツジ MS ロイ サンデー	島根	河村保志
	10 チャンピオン リザーブシニアチャンピオン	グランデイル ウインド チャリデ アニー ET	岡山	吉原直樹
最優秀高等学校		京都府立農芸高等学校		

2017 セントラルジャパン ホルスタインシヨウ開催

4月13日から15日、「2017セントラルジャパン ホルスタインシヨウ」が静岡県御殿場市馬術・スポーツセンターで開催されました。

中部地区を中心に関東・近畿・中国などの19県から196頭の出品があり、当日は好天に恵まれ共進会日和になりました。

審査員はローズデール ジェネティクスのマーク・ルース氏が務められ、2日間にわたる審査を的確に進められました。

おかやまホルスタイン改良同志会からは未經産6頭、経産4頭、計10頭が出品されました。



成績は別表のとおり、第11部、及び第15部の各県対抗（未經産2頭・経産2頭 1組）ではリザーブチャンピオンを獲得するなど上位入賞を果たすことができました。県対抗戦では出品者一団となり、岡山県の改良牛の素晴らしさを存分に見ていただけではないでしょうか。また、学生リードマンコンテストでは、多数の出場校の中から落着きのあるリードが評価され（公財）中国四国酪農大学の浅田真帆さんが第3位を獲得されました。歓喜に沸き、友だちと抱き合いながら涙する姿には、思い入れの強さを感じ、感銘を受けました。他の生徒さんたちも堂々たるリードマンぶりで、岡山県の未来は明るいことを確信しました。今後益々のご活躍を心より期待しています。

全体では、グラランドチャンピオン、リザーブ・グラランドチャンピオン、さらに県対抗戦でも1位と群馬県の牛の躍進が目立っていました。

最後になりましたが、多くのご協賛をいただき力強い激励を賜りました皆様には厚くお礼申し上げます。

（事務局）

2017セントラルジャパン ホルスタインシヨウ成績表(岡山県出品牛)

	部	成	績	名	号	氏名
未經産牛	1	1	等賞	ヒールクレスト	マツカチエン セジス	妹尾優佳
	2	1	等賞	カヤベ	パンダ アテイツク トレートル	(公財)中国四国酪農大学校
	3	2	等賞	カヤベ	セイエラ アイオーン バツカス RED	(公財)中国四国酪農大学校
	3	5	位	グランデイール	ゴローマル アニー ET	吉原直樹
	3	1	等賞	タカノウ	アルタアメイジング ダーハム ワカバ	岡山県立高松農業高等学校
経産牛	5	2	等賞	スカイフオール	ファイヤーワークス ピーブ	藤原完治
	6	4	位	CF	パワーエリート ファイバー マーチヤント	松崎範之
	9	3	位	ヒールクレスト	ジレスピー ロイ	妹尾優佳
	11	2	位	グランデイール	ウインド チャリデ アニー ET	吉原直樹
	12	4	位	ノースフィールド	ローリン リツキー	㈱ミルクファクトリーキシモト
15	各県対抗（未經産2頭・経産2頭 1組）				岡山県	2位
ベストリードマンコンテスト 学生の部					(公財)中国四国酪農大学校	浅田 真帆 3位

第48回西日本酪農青年女性会議

酪農発表大会開催

4月20日、山口県湯田温泉「ユウベルホテル松政」で、101名の参加により開催されました。

経営発表の部では、山口県酪農青年女性会議の松永毅さん、広酪メンバーズクラブの井上正芳さんが発表をされました。厳正な審査の結果、資源循環型酪農の実現、地域住民や農家等とのつながり、繁殖技術水準が評価され松永毅さんが全国大会へ選出されました。



発表者の方々とともに(前列右から4番目が安富さん)

意見体験発表の部では、おかやま酪農協女性部の安富由美子さん、愛媛県酪農経営者協議会の永市明仁さんが発表をされました。

安富さんは「最高のパートナー」と題して：

私と主人は、同じ高校の同級生でバスケットボール部に所属し、仲間として共に過ごしていました。主人が北海道の大学を卒業後再開してお付き合いを始めました。サラリーマン家庭に育ち、農業などしたことがなかった私が、酪農をすることは思っていませんでした。

主人は結婚する1年前に岡山県内の酪農家としては初めてアイスクリーム店の創業を始めました。私は結婚後、アイス部門を中心に手伝うことになりました。ソフトクリームとカップアイスの製造・販売をスタートさせ、小さいけれど、どこにも負けないという家族の思いを込めて、商品名を「小さな酪農家のまじめなアイス」に決めました。

「美味しいアイスは牛乳から」という姿勢で、健康な牛づくりにこだわり、牛舎・育成舎に炭を埋め込んだり、マイナスイオン水を与えるな

どさまざまな工夫をしています。また、牛床ベットの発酵を促し、大腸菌などの菌を抑制するために、毎日マヤ上げを行い、おが屑を入れ、朝夕は納豆菌を牛床に散布してトラクターで耕耘するなど努力をしています。

牧場では、消費者の方々との交流のために年に4回ファーム祭というイベントを開催しています。アイスクリームの販売だけでなく、地元の農家さんがつくられた野菜や花の苗の販売、還元肉の販売、おせんべい屋さんや雑貨屋さんに出店していただき、お客様に楽しんでいただけるように工夫を凝らしています。

また、平成21年より酪農教育ファーム認証牧場になり、小中高生の酪農体験の受け入れや搾乳体験・バターづくり体験など、多くの消費者の方々には牧場の作業や牛乳のことなど知っていただくための行事を積極的に行っていきます。

私が酪農人生を歩むことになったのは、旦那様として選んだ人が酪農家だったから。私自身、牛に対しての知識が全くなく「牛って4つも胃があるんだあー」とか「仔牛を産まないとお乳は出ないんだあー」といったところからのスタートでした。アイスクリームのお店の仕事をしながら、堆肥販売や配達をするた

めにホイロローダーや2トトラックの運転を日々訓練しました。

そして、3人の娘たちの育児が一段落した6年前より、徐々に酪農部門の仕事もするようになり、現在は夕方搾乳作業と仔牛の管理全般を行っていきます。搾乳作業を始めたばかりの頃、パーラー搾乳なので自分より大きな牛たちを待機場へ追い込むのに、なかなかいうことを聞いてくれない牛たちに悪戦苦闘の毎日でした。そのとき「牛は人間が無理やりに押しつたり引いたりしても動かない」「声をかけてやりながら、行かせたい方向へ自然に動かすのが人間の役目」と教えられ、何度も何度も失敗しながら、やっと最近になってスムーズに牛を移動させることができるようになりました。牛一頭一頭にもいろいろな性格の子がいて、特徴のある牛には名前をつけて友だちのように言葉をかけてやることで、親近感がわくと同時に牛の仕事が楽しくなってきました。

そして、備前地区女性部部长・おからく女性部副委員長として集まりには積極的に参加し、先輩お母さん方のアドバイスやお話などを参考にさせていただいています。

酪農家にお嫁に来て18年。畑違いの仕事をして約7年。何もかもが初めてで日々驚きの毎日でしたが、

今となつては当たり前前の毎日となつています。来年には「搾乳ロボット」の導入を計画しています。

牛は経済動物と言われますが、人が手をかけてやればやるほど、良いお乳をたくさん出して期待に応えてくれます。たくさん手を掛けた良いお乳からは美味しいアイスクリームがつくれます。良いお乳からできる美味しいアイスクリームは、多くのお客様を笑顔にしてくれます。お客様様の「おいしい」の笑顔は、私たちが笑顔にしてくれます。私はこの魅力ある仕事「酪農」に誇りを感じます。これからも、もっともっと牛に愛情をこめて楽しく酪農をしたいと思いたいと思います。牛たちは、私たちにとってペットでも家族でもありません。最高のパートナーです。と発表されました。

厳正な審査の結果、安富由美子さんが全国大会へ選出されました。

第46回全国酪農青年女性酪農発表大会は7月13日から14日、北海道札幌市「札幌ビューホテル大通公園」で開催されます。代表になられたお二人には全国大会で実力を発揮し、ご活躍されることをお祈りいたしております。

(生産支援課)

平成29年度生乳需給安定化対策

基本的な考え方

平成29年度は、「平成27年度から3カ年間は生乳の増産・維持を目標とする」とした中期計画生産対策の最終年度に当たります。全国的な生乳生産基盤の弱体化により、生乳生産の回復が見込めないため、大きな枠組み変更はありません。

この運用につきましては、生産枠の重視から個々の生産者の営農計画を尊重する考え方に移行したため、名称が生乳計画生産対策から**生乳需給安定化対策**に変更されました。

平成29年度生乳計画生産目標数量について

前記のような考え方を踏まえ、平成29年度の生産枠は、(一社)中央酪農会議より、次の通り試算値が示されています。

【全国段階】

「販売基準数量」をJミルクの需給見通しに基づき、663万6千t(平成28年度供給数量見込み対比100%)と設定。

「選択的拡大生産数量」及び「特別調整乳数量」については、各指定団体からの申請に基づき配分されます。

(旧)計画生産対策

今年度の大きな変更点は、従来の「供給目標数量」に対する超過・未達のペナルティ措置が休止されることです。また、「生乳計画生産目標数量」の期中変更及び指定団体間調整も休止されるため、実質的には、平成29年度の生産実績は、全て計画生産数量として認められます。

【中国生乳販連段階】

(一社)中央酪農会議からは、中国生乳販連に対して「供給目標数量」として275,316t(前年度実績対比100・1%)が試算値として配分されています。

中国生乳販連では、これに「選択的拡大生産数量」400tを加えた、275,716t(前年度実績対比100・3%)を平成29年度の計画生産目標数量として設定しています。

【組合の計画生産対策について】

これらのことに基づいて、岡山県には、90,394t(販売基準数量90,263t、選択的拡大数量131t)の計画生産目標数量が設定されています。(前年度実績対比100・3%)

しかし、本組合においては、生産者の大規模化に伴い、生産見込として90,500t(前年度実績対比100・4%)を予定しています。

このため、計画生産目標数量は生産見込と同様、90,500tとし、個人別の配分は実施しない方針で進めていきます。

全国的に生乳需給がひっ迫傾向で推移する中、安定した生乳供給が求められています。このため、生乳生産は、生産枠を意識することなく、増産が十分可能な状況にあることをご承知ください。(生乳課)

平成28年度実績数量

90,137t

(前年度実績対比96・4%)

平成29年4月1日現在

生乳出荷者戸数

239戸

※ご不明な点があれば生乳課までお問い合わせください。



アミノ酸について②

全国酪農業協同組合連合会
 おかやま酪農業協同組合駐在 牛島 隆一

「おからく組合だより3月号」ではアミノ酸の基本について情報提供いたしました。今回は、牛にとって

「リジン」のバランスがほぼ同じで

あることを報告しました。(図1参照)このことから菌体タンパクは、牛に合ったバランスの良いアミノ酸を含んだ動物性タンパク系飼料と言えます。飼料成分の3分の2(60%~70%)位をルーメン内の微生物で嫌気性発酵されます。飼料の残り3分の1(30%強)がルーメンを通過(バイパス)します。(図2参照)

ルーメン内で生産されるアミノ酸組成の良い「菌体タンパク」と「バイパスタンパク」と「制限アミノ酸」について説明いたします。

①菌体タンパクについて
 菌体タンパク(写真1)のアミノ酸組成は、牛乳に含まれる「乳タンパク」と「牛の筋肉タンパク」の制

図1 菌体タンパクは乳タンパクと牛肉タンパクのメチオニン：リジン割合が1：3と似通っている

アミノ酸	(g/100g蛋白)		
	微生物体蛋白	牛乳中蛋白	牛肉中蛋白
メチオニン	2.60	2.71	2.00
リジン	7.90	7.62	6.40
ヒスチジン	2.00	2.74	2.50
フェニルアラニン	5.10	4.75	3.50
トリプトファン	—	1.51	1.60
スレオニン	5.80	3.72	3.90
ロイシン	8.10	9.18	6.70
イソロイシン	5.70	5.79	2.80
バリン	6.20	5.89	4.00
アルギニン	5.10	3.40	6.00

(O'Connor, Sniffen and Chalupa, 1993 より改編)

図2 反芻動物の消化管の模式図



②バイパスタンパク
 飼料成分の3分の1(約30%強)はルーメン内で微生物にアタックされず通過(バイパス)し、第4胃で消化され単胃動物のような消化をします。これをバイパスタンパクと言いますが、アミノ酸組成については、菌体タンパクのような牛にとってすばらしいアミノ酸組成であるとは限りません。そこで、バイパスタンパク製品は植物性タンパクで、動物性タンパクである菌体タンパクに近いアミノ酸

※菌体タンパクは、ルーメン発酵により植物性タンパクを効率よく動物性タンパクに変換します。よってルーメン発酵を最大限活かすことは、より良いタンパク飼料の生産となります。



写真2

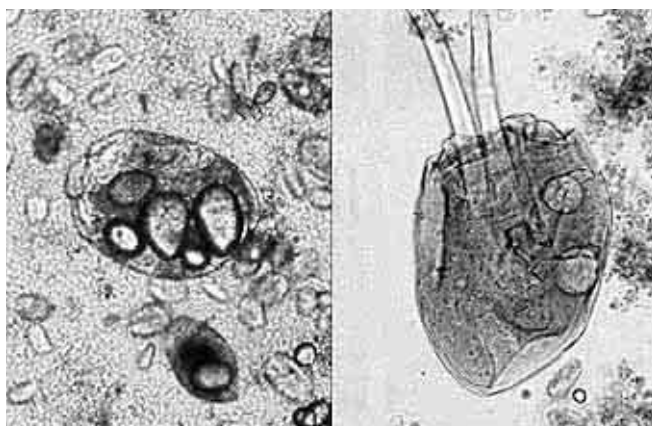


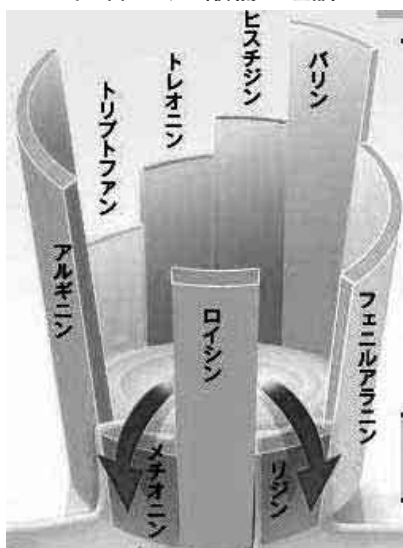
写真1

組成が求められます。今回リニューアルした「アミノサプリL」（写真2）は従来品よりもバイパスリジンを強化し、さらに菌体タンパクに近いアミノ酸組成に近づけています。メチオニン供給源としてのバイパスタンパク系飼料は、とうもろこし由来のタンパク源として主に「コーングルテンミール」、リジン供給源としてのタンパク系飼料は大豆由来のタンパク源として「煎り大豆」「ソイプラス」等があります。しかし、とうもろこし系・大豆系のバイパスタンパク源だけではアミノ酸バランスの調整が効かず、バイパスメチオニン素材やバイパスリジン製剤等のルーメン保護アミノ酸をプラスして調整されるようになりました。

③制限アミノ酸について

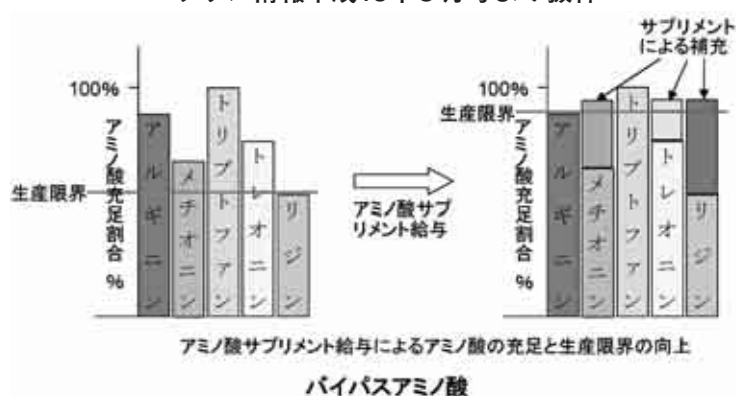
菌体タンパク・バイパスタンパクは、第4胃でタンパク分解酵素にてアミノ酸まで分解され小腸で取り込

図3 酸桶の理論
必須アミノ酸



まれます。その後、肝臓に入り必要なタンパク質に再合成されるのですが、全てのアミノ酸要求量が満たされなければなりません。小腸で取り込まれる代謝アミノ酸の量を100%充足させても、不足しているアミノ酸があれば充足とはならずタンパク質の再合成にはなりません。乳牛で種々の飼養条件で検証した結果、不足しやすいアミノ酸は第1に「メチオニン」、第2に「リジン」となる場合が多い

図4 ニッサン情報平成18年9月号より抜粋



アミノ酸サプリメント給与によるアミノ酸の充足と生産限界の向上
バイパスアミノ酸

とされています。これを「制限アミノ酸」と言います。制限アミノ酸は図3の「桶の理論」でよく説明されます。メチオニンとリジンの桶の板が短いため、それ以上水がたまらずあふれてしまいます。図4では、リジン・メチオニン・トロイロニンの順番で不足しています。この場合の第1制限アミノ酸はリジンです。アミノサプリL等のアミノ酸サプリメントを給与して、不足しているリジン・メチオニン・トロイロニンを補充することにより補った分だけ生産限界を上げて改善することになります。

まとめ

3月号と5月号にかけてアミノ酸について説明いたしました。

現場においては飼料の粗タンパク（CP）要求量で語られますが、牛の栄養学においてはアミノ酸要求量しか存在しません。ルーメンで生産される菌体タンパクは牛にとって、最高のアミノ酸組成を持った動物性タンパクです。しかもルーメン発酵を最大限引き出せば、とても安価に良質なアミノ酸を牛に供給できます。バイパスタンパクにおいては菌体タンパク並みのアミノ酸組成を持ったアミノ酸組成が必要で、それを植物性タンパクで飼料を処方されたもので優れた加工技術で製造され

たものでなければなりません。制限アミノ酸になりやすい「メチオニン」「リジン」をルーメン通過（バイパス）させ、小腸でアミノ酸として吸収させることは乳量・乳タンパク・繁殖の改善等に大きな役割を果たすことと思われれます。このアミノ酸要求量を計算できるソフトはコーネル大学が開発した「CNCP6」です。このCNCP6はバージョン6になり、現在もアップデート中です。このCNCP6をベースにして開発された飼料設計ソフトは「AMTS」「NDS」の2社のみです。4月25日から26日にかけて中国四国酪農大学校にて主に西日本地区の指導担当者を集め飼料設計ソフト「AMTS」開発者のトーマス・タルキー氏を招聘し、研修会を実施しました。今後はおかやま酪農業協同組合や岡山県の指導担当者にも徐々に「AMTS」「NDS」の普及が進むことと思われれます。

全酪連の現場担当職員も「AMTS」か「NDS」を持っていきます。乳量のアップ・乳成分のアップ・繁殖成績の向上等ご相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

政治懇談会開催

生産者と同じ視点の農政を……

3月25日、毎年恒例になりました酪政連備前支部主催による「政治懇談会」を春の日差しに包まれる西大寺緑化公園内の百花プラザで開催しました。今回も酪政連推薦の衆議院議員の山下貴司先生、県議会議員（神宝、福島両先生）、市議会議員（森田先生）をお迎えし、生産者サイドは松崎委員長を筆頭に11名、さらには東山組合長と藤原代表監事、加えて早瀬県連事務局長にも参加をいただき、総勢20名の参集の中、2



生産者の生の声

時間余りの懇談会となりました。

懇談会の議案は、昨年と同様に生産者側から事務局あてに提出されていた要望書を酪政連備前支部の三役で取りまとめ、事前に各議員あてに送付していた要望についての質疑を中心に、各生産者から現行の酪農経営と将来の不安材料に至る本音を伝えるとともに「要望の真の意味合い」を先生方に理解していただくべく説明を加え、両者が内容を把握した中での懇談会ゆえ有意義な意見交換となりました。

以下に懇談会で話し合われた、内容を掻い摘まんで、明記します。

指定団体制度の機能存続維持

機能存続維持

指定団体とそれ以外の団体との対等な競争条件の確保（イコールフットイング）を理由に補給金支給案が浮上したが、指定団体のみならず、アウトサイダーへの補給金の実施がなされた場合、以下の3点のリスクが常に起こる可能性は高く、中小規模の酪農家の経営を圧迫する結果を招く可能性ともなりかねない。

① 指定団体による共販を選択しない

酪農家が増えれば酪農家の「所得上昇（改善）につながる」と言う考えは、一部のアウトサイダーで見られるような飲用中心の販売では所得向上の可能性はある。ただし、全量買い取りではないリスクは、必ず乱販売をまねき、需給調整上の問題をまねきかねない。

② 既存共販以外の団体にも補給金の交付が成されれば、アウトサイダーにとって短期的に乳価の安定が計れるかもしれないが、共販乳価の安定に資することはない。逆に中長期的には、乳業メーカーサイドは他の共販との比較が容易になり、共販側は乳価交渉力の低下をまねく。

③ インサイダーでの補給金が乳製品向けの生乳を対象としている意味は、乳製品の需給調整機能を果たしていることに他ならない。反対に需給調整機能を持たないアウトサイダーでの乳製品向けの生乳にも補給金の対象とすることは、需給調整機能を有することになり、排除できない。

3点のリスクが付きまとう中、これまでのもたまたま現行の日本の生乳生産を担っている中・小を中心とした共販による役割に対する生産基盤のさらなる弱体化につながり、力を弱めることが考えられる。

中小の酪農家を早期離農に招くことの結果として、今まで国土保全や中山間の土地の改良・維持を大きく担ってきた存在がいなくなり、中山間の荒廃が予想される。

乳脂肪基準の見直し

乳成分には乳脂肪と無脂乳固形分に2分されるが、2つの成分には全く別の意味合いがある。

無脂乳固形分は牛乳に含まれるミネラルや蛋白質が構成要素で牛乳の特質にとつて、必要不可欠な成分である。しかし、昨今の健康ブームでとかく取沙汰されている脂肪は前者と異なる。低脂肪の食品が評価を受けるのに対し、乳業メーカーが受け入れる生乳の脂肪基準を生産者がクリアする負担においてはますます厳しさが増す一方である。また農業政策においても、休耕田を利用した国産飼料を活用すべし!!と言う指導を実践している酪農家においては、狭小な土地基盤と四季の気候変化の下での生乳における脂肪基準の確保は年々苦慮する傾向にある。

乳脂肪の基準改正は昭和62年にそれまでの3・2%から3・5%に引き上げられた。

基準が見直されてから、その効果は比較的低調に推移してきたが、近年になって牛乳の持つ機能性が消費

者に評価されつつあり、牛乳の理解醸成が進み生産者の努力がようやく報われつつある。一方で生産現場における意見としては乳脂肪率の改定に強い要望が出ている。

市町村の畜産クラスター協議会の検討を急ぐ

国庫事業である畜産クラスター事業は現在5か年事業の2か年が終了しようとしている。現行、岡山県での市町村クラスター協議会が立ち上がっているのは、奈義町、岡山市、津山市、新見市と笠岡市の5か所でしかなく、他の市町村では、民間の協議会が国の公募に対して申請書を手掛けている。市町村のそれに比し非常に採択のハードルが高く、申請条件をクリアできる酪農家、及び畜産農家は非常に限られているのが実情である。その中で最も悲痛に感じるのが後継者はいないが、小規模なりの工夫で継続したいが、設備や機械の導入申請に対し現状の国の採択基準では、諦めざる負えないケースが多く見受けられる点である。

ぜひ政治家の先生方にも、現状を踏まえてご一考いただきたい。

上記の内容を中心に、生産者サイドからは、「一過性の副産物収入に

頼らないで生乳生産のみの収支で経営が成り立たねば、今後の酪農は残っていかない」と言う意見をいただきました。

先生方は農水省を含めた国政や地方農政と生産現場との温度差を改めて認識されたようすで、議員団からは、「解りました。再度生産者の視点で、農水省や各農業委員会で検討するよう努めたい」との言葉をいただきました。

今後も備前支部では、このような懇談会を設け、小単位のコミュニケーションから発信した声が農政改革につながり、生産者による一層の活力を生み出すことを願って止みません。末筆ながら、ご多忙中にも関わらずご出席いただきました諸先生方、現場の声を率直に届けてもらいました生産者各位に感謝申し上げます。

(酪政連備前支部事務局)

第16回岡山県酪農政治連盟

美作支部大会開催

3月30日、「第16回岡山県酪農政治連盟美作支部大会」が、おからく本所3階大会議室で、岡山県選出の衆議員議員秘書をはじめ、美作地域選出の県議会議員他、多数のご来賓のご出席をいただき盛大に開催されました。

開会にあたり、小童谷委員長から、「酪農・乳業界における最も大きな話題は米国大統領選挙で、D・トランプ氏が大統領に就任し、TPP離

脱や不法移民防止のため、国境に壁をつくる等の過激な公約を連発し、常識から逸脱したトランプ旋風を巻き起こしたことであった。今後、FTAをはじめとする不透明な交渉内容にさまざまな形で国内酪農業に大きな影響が懸念されることとなったが、美作地域には若い後継者も多く、皆さんの協力を得ながら、あらゆる運動を展開したい」との挨拶で始まり、県議、来賓祝辞に続いて、本年度の運動方針の重点施策として、①指定生乳生産者団体制度の内容の堅持、②酪農経営安定対策（セーフティネット）の創設、③乳用後継牛確保のための対策、④自給飼料増産のための制度の拡充または創設、⑤加工原料乳生産補給金、関連対策の要求と実現、⑥酪農が存続できる乳価の要求と実現などが承認されました。

最後に、会員の団結を強め、総力をあげて国内外の情勢に対処すべく「牛乳・乳製品の消費拡大を図ろう」「若者が希望がもてる酪農環境を作ろう」など、5項目の大会スローガンを合唱し、閉会した。

(津山支所)



大会風景(小童谷委員長挨拶)

岡山県酪農政治連盟備南支部・びなん酪農組合通常総会開催

4月17日、「岡山県酪農政治連盟備南支部・びなん酪農組合通常総会」を倉敷市玉島の国民宿舎「良寛荘」で開催しました。

岡山県酪農政治連盟備南支部総会においては、吉本洋治支部長の開会の挨拶の後、岡山県酪農政治連盟松崎隆委員長よりご祝辞をいただきました。難波明朗議長の進行により、平成28年度活動報告並びに収支決算の件、平成29年度運動方針並びに収支予算（案）の件、平成29年度会費徴収の件の議案について執行部より説明があり、すべて承認されました。また、規約の一部改正の件、役員改選の件について事務局より説明があ



総会の様子

り、承認されました。酪政連備南支部通常総会の終了後、正午より、びなん酪農組合通常総会は、野住直人組合長の挨拶で開会しました。最初に平成28年度の良質乳出荷者の表彰があり、表彰規定に基づき最優秀賞に三宅安史さん、優秀賞に三宅直昭さん、玄馬正夫さん、平野耕平さん、川上治芳さんがそれぞれ表彰されました。そして、「生乳の価値向上に向けた取り組み」の表彰があり、第1認定（生乳処理室）で内海佳和さん、(有希望園さん、(株)こはらさん、三宅安史さん、山川秀司さん、難波明朗さん、徳山茂さん、第2認定（牛舎）で池上信吉さん、櫛田信正さん、武内秀樹さん、



表彰を受ける三宅安史さん

ひろば

津山支所津山地区

(甲元敬司)

酪農に限らず農林業者にとつて、鳥獣被害に悩まされている地域は全国的に拡大の一途だと思えます。我が家においても20年程前からイノシシによる被害が開始め、町内全域をトタンで囲う措置をとりましたが、飛び越えたり、持ち上げたりで効果は少ない現状でした。当時も地域には有害鳥獣駆除班という猟師の組織がありましたが、「夏は脂が少ないから」「小さいのは大きくしてから！」と農家に積極的対応してもらえませんでした。「それなら自分で捕ってやる！」と狩猟免許を取ったのが平成13年で、現在には有害鳥獣駆除実施隊に所属しています。経験者から教えてもらい、ワイヤーメッシュを利用して数基のオリを手づくりし、スタートしました。その当時、地域に他のオリがなく、イノシシにも警戒心がなかったのか初年度から小物を中心に群単位で捕獲でき、多い年は50数頭捕れ、駆除班で捕獲数No.1の年が数年ありました。「小さいのまで捕る！」と猟師仲間から結構非難されますが、「獣被害解消のために根こそぎ捕ってやる！」を目標にやってきました。現在は近隣町内も含め10基程度のオリを管理していますが、見回りがこまめにできないのが現状ですが、地域の期待・協力も手厚く得られ、近くの住人が見回りに協



成果を挙げている「くくり罠」

力してくれています。エサは基本米糠を使用しますが、食いつきが悪い場合はトウモロコシ圧パンや餅米の屑などをトッピングします。最近はオリに対する警戒心も強くなり、簡単に捕れにくくなってきました。くくり罠との併用で成果を挙げられています。オリの方が見回り頻度が少なく、数が捕獲できて楽ですが、くくり罠で物が捕れたときは「捕ったぞー！」と喜びは最高です。最近では猟師仲間の中で仕留め・搬出役となり、特注のヤリで心臓めがけ「ブスッ！」と数百頭は仕留めましたが、もともと殺生は嫌いです。特に子鹿に対してはかわいそうになり、パドックを囲い4頭飼育しています。もう1つ、猟師なのに意外なのが、食べるのが嫌いです。旨いのは知っています。さばくのは脂のついた良いのだけ。知人に配るばかりです。町内でのイノシ

(株)竹信牧場さん、難波明朗さん、徳山茂さん、第3認定(搾乳衛生)で徳山茂さんが表彰されました。

続いて、備中県民局黒田課長、おからく東山組合長から、来賓のご祝辞をいただきました。

三宅安史議長の進行により、第1号議案から第4号議案が審議され、

すべて承認されました。

通常総会終了後はご来賓の皆様を交え、和やかに親睦会を開催しました。

最後に、お忙しい中ご出席いただきましたご来賓、組合員の皆様に厚くお礼申し上げます。

(南支所備南事務所)

結果について、各監事から報告を受けた。

次の事項を協議し、決定した。

○平成28年度生乳計画生産状況

平成29年2月の生乳計画生産の進捗状況等について報告した。

○機構改革に伴う各種規程等の一部変更

機構改革により事業所から事務所への名称変更に伴い各種規程等を一部変更することとした。

○賦課金の乳量割傾斜配分徴収

賦課金については昨年から継続審議していた。昨今、大型経営体が増

シ被害は激減しました。しかし、最近では鹿が増加しています。オリでの捕獲には限界が出てきているので、今後はくりり罫の腕を磨かなければなりません。鳥獣被害は今後もなくなるどころか増え続けると思います。地域の実施隊員の中で40歳代は自分一人ではと

んどが60歳・70歳代と猟師も高齢化です。今後、農家は被害に対し、自らも狩猟免許を取得し、農地を守っていける取り組みをしていかなければいけません。そのためには、JAグループやおからくも率先して取り組んでいただけるとありがたいです。

えている中、賦課金を乳量割傾斜配分で徴収することとし、総会に提案することを承認した。

○大型農家の増頭対策(集乳用施設整備)

大型農家の増頭計画が具体的に進展する中、組合は集乳するという位置づけで増頭対策に向け集乳用施設整備をすることとした。

○蒜山倉庫移転に伴う測量及びボーリング調査実施

蒜山倉庫移転に伴い、蒜山地域保全条例に基づく開発許可申請に係る測量、倉庫建設に係るボーリングの地盤調査を実施することとした。

○生産支援課助成事業

平成29年度も、おからく単独助成事業を行い、合わせて国及び県の助成事業についても取り組むこととした。

○乳牛導入事業(単県事業含む)の取り組み

平成29年度も乳牛導入助成事業に

取り組むとともに単県事業も取り組むこととした。

○役員推薦委員地区割当数(案)

組合員数の減少等に伴い、役員推薦委員地区割当数を現行45人から30人への変更案を示し、今回の理事会で決定することとした。

○平成29年度内部監査年間計画及びコンプライアンス研修の策定

平成29年度内部監査年間計画について協議し、全部署対象に実施することとした。また、コンプライアンス研修会等についても、年間計画を策定した。

○平成28年度末手当の支給

平成28年度末手当の支給することを承認した。

○報告事項

平成28年度内部監査の報告、資金借入者の現状などについて報告した。

理事会報告

平成29年3月31日、第192回理事会を理事11名、監事3名が出席し、開催した。

東山組合長より酪農一般情勢等について報告があった。

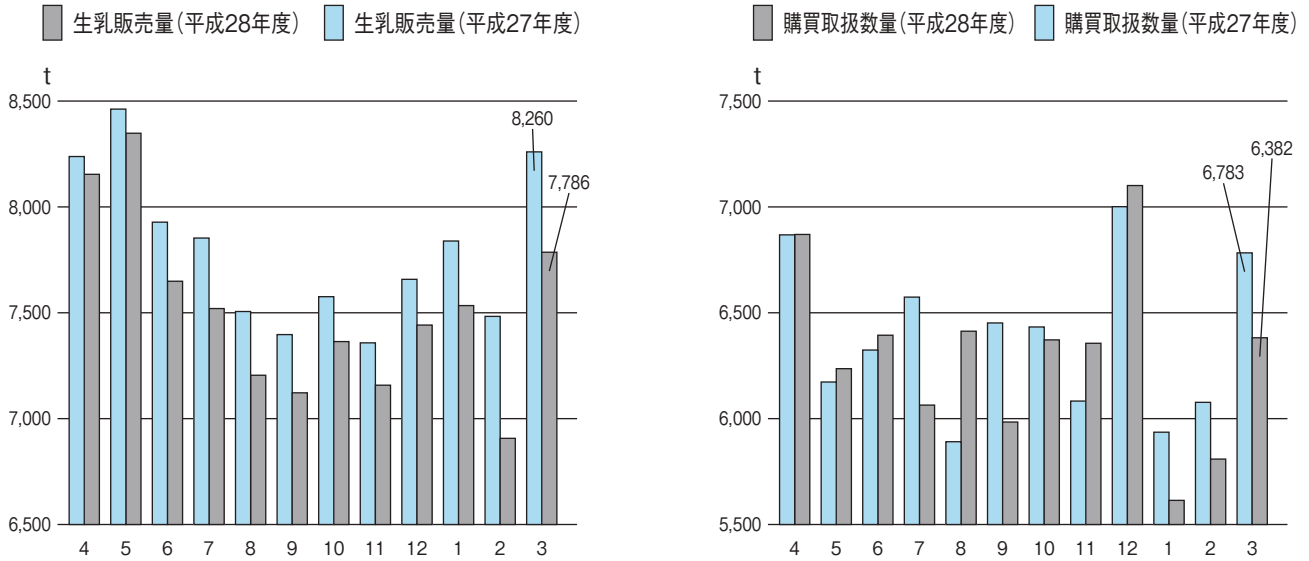
次に、平成29年2月9日、10日に実施した第3四半期末の監事監査の

お礼

このたび、加賀郡吉備中央町 大木直太郎様より香典返戻金として、(一財)おからく教育振興会にご寄付をいただきました。

事業主旨に従い、有効に活用させていただきます。ありがとうございます。

おからく事業実績



生乳統計

※中央酪農会議速報より抜粋

地域	月	生産量 (トン)	用途別処理量 (トン)			前年比 (%)			
			飲用乳等向け	乳製品等向け	その他	生産	飲用乳製品	その他	
全国	3	606,024	297,846	150,839	157,339	97.9	99.6	89.4	104.2
	4~3	7,054,411	3,741,416	1,548,848	1,764,147	99.0	100.7	94.6	99.6
岡山県	3	7,786	7,063	412	311	94.3	93.7	106.2	92.6
	4~3	90,137	84,081	2,588	3,468	96.4	96.8	91.6	90.9
北海道	3	320,282	56,573	115,625	148,084	98.0	104.1	88.5	104.3



5月の主な行事

- 2日 定例理事会
 - 9日 津山地区ブロック会議
体格審査・体型調査 (～18日)
 - 10日 蒜山地区ブロック会議
 - 11日 定例監事監査 (～12日)
 - 16日 全国ジャージー酪農振興協議会
 - 22日 西大寺地区ブロック会議
 - 24日 管理職会議
 - 25日 備南地区ブロック会議
 - 30日 牛乳月間キャンペーン
岡山県知事・農政局長訪問
 - 31日 定例理事会
- 6月**
- 8日 びほく地区ブロック会議
 - 9日 真南地区ブロック会議
 - 23日 第3回通常総会
 - 27日 管理職会議
 - 30日 定例理事会

北海道初妊牛価格

4月については、春分娩の最終手当需要から活発な取引が見込まれましたが初妊牛導入に対する高値警戒感もあり、平均価格は93万9千円（前月比5千円高・前年比19万5千円高）と強持ち合いでの推移となりました。

5月については、出回りの中心が夏分娩となりますが、大型経営を中心とした規模拡大や更新牛確保の需要が見込まれることから、持ち合いで推移することが予測されます。